

# この「山梨」に実は溶け込んでいた！

写真・動画  
・イラスト  
大募集！

こんな人 あんな場所 あのコミュニティ この企業や店

素敵な「●●」を知つてほしい、と思っている皆さんへ

あなたの周りの「スペシャル」な

# 「ヒト・モノ・コト・バシヨ」 教えてください！

## イベント趣旨

＜あなたの素敵なストーリーを紹介してほしい＞

詳細なイベントメッセージは次ページから！

- ・山々に囲まれた山梨は、これまで、様々な人・文化・風習・考えなどを、受け入れ、取り入れ、「共生」しながら創られてきた。
- ・そんな山梨で、今、どのような人々・コミュニティー、スポット・イベントなどが、「溶け込み」「共生」しているかを知りたい。
- ・皆さんには、実は山梨に溶け込んでいた、素敵な山梨を紹介してほしい！  
「こんな山梨があったんだ！」「こんな山梨っていいね！」と、県民を唸らせるスペシャルな「ヒト・モノ・コト・バシヨ」を紹介してほしい。

## 募集期間

開始

2026

1.26

(MON)

締切

2026

3.15

(SUN)

## 【テーマ】

「こんな山梨っていいね！」と思わせる「ヒト・モノ・コト・バシヨ」

- ・ ジュエリー業界で活躍している素敵な外国人！
- ・ 森の中でパンを売っている、東京から移住してきた夫婦！
- ・ これまで農地だったところに建っている格好いい工場！
- ・ 老若男女・外国人が交わるイベント・コミュニティ！
- ・ 誰も知らない私だけが知るスポット！
- ・ LGBTQ+の方が経営するお店！
- ・ おしゃれな野菜をつくっているおじいちゃんと若者！
- ・ 現場監督をしている女性の技術管理者！
- ・ 笑顔が素敵な女性社長！
- ・ あなたの大切な友達同士が笑い合う、いつもの教室の様子！ など

## ＼特設サイト／



## 【提出形式】

- 写真・動画・イラストなど
- 専用メールアドレスあてに提出
- PRコメントも併せて提出

## 【留意事項】

- 提出された媒体は県の普及啓発素材として活用します
- 被写体の肖像権や著作権については、提出者が十分に注意を払い、提出者が責任を持って対応すること

あなたの周りの「素敵な山梨」「面白い山梨」「誰も知らない山梨」を教えてほしい。  
**なぜかって？** 山梨は、日本のはほぼ中央に位置しており、北東部に秩父山塊、西部に3,000m級の山々からなるユネスコエコパーク南アルプス、南部には世界遺産富士山、北部には八ヶ岳・茅ヶ岳が広い裾野を引く**内陸県**。地図を見てみると、山梨県は本当に山々に囲まれている**盆地**であることがよく分かる。そんな山梨は**独特な文化圏**も形成している。まずは、**甲州弁**に注目してみよう。甲州弁の否定の助動詞は「～ん」。あれ？ 否定の「～ん」って「～しん」「～へん」みたいに関西弁・名古屋弁など西日本で使われる言葉だよね…？ それに、山梨に近い静岡市では「～ねえ」。松本・佐久では「～ない」。でも、山梨県の特に甲府盆地周辺では、「行かないで」は「行かんで」、「食べないで」は「食べんで」…。否定の言葉で「～ん」が甲州弁に使われているよね？ ちょっと違和感がある…。さて「～ん」と「～ない」の**日本の境界線**はどこだろう。諸説あるが、「太平洋側は静岡県の真ん中～長野県～日本海側は新潟県」となっているらしい。その境界線で考えると、本来、山梨は「～ない」に分布しているはず。だけど「～ん」である。つまり、山梨周辺は**飛び地**的に「～ん」の地域になっているのだ。なぜ山梨は「～ん」になったのだろうか？ 古く昔、山梨は山々に囲まれ陸路での交通は困難を伴つた。その際、山梨の人々に物資はどのように届いていたのか。実は、太平洋側から富士川を**船で遡上**して届けていたとか。物資は、海側で積み込まれ、富士川を船で遡り、山梨で降ろされる。山梨と海側は**富士川でつながる**のだ。そのとき、海から入った遠くの文化や風習が**山梨で交わる**。新しいヒト・モノ・コトを受け入れる土壤のあった山梨は、様々な文化・風習が、**飛び地的に交わる場所**であったのだ。そこでポイントになるのは「塩」。実は、山梨は塩を「瀬戸内・関西方面」から輸入していたなんて噂も。つまり、山梨は、塩を輸入していたが、それを船で運ぶ人たちは「～ん」を多様する関西方面の言葉に日常的に触れていたはず。山梨は、様々な文化・風習をさらりと受け入れ、これまでの地域に溶け込ませることができる場所であったことから、「～ん」という言葉も、徐々に甲州弁に溶け込んでいったのではないか？ 山梨は、「塩」だけでなく「～ん」という言葉も**輸入**していたのかも！！な～んて説も。こうして現在、「～ん」「～ない」の分布図を見ると、山梨の甲府盆地周辺だけが、飛び地的に「～ん」を使っている地域になったのだ。一方、山梨県でも御坂山塊の南にある富士山周辺は「～ない」を使っている。同じ山梨でも「～ん」と「～ない」が**共存**しているのだ。このように、山梨は、地理的には急峻な山々に囲まれた盆地であるにも関わらず、そのような新しく入ってくる人・文化・言葉などを受け入れ、ブレンドし、そして**定着**させていく、また、**共存**していく特異で特別な地である。次に、**「甲斐の国」**に注目してみよう。なぜ山梨は、「甲斐（かい）」と呼ばれていたのだろうか。「甲斐」の歴史的仮名遣いは**「かひ」**と表す

らしい。古く山梨の地は、東海道などからの人々が行き交う地であった。「行き交ひ」の「交ひ」を由来に、時代とともに「ひ」が「い」と表記されるようになり「かい」となった。このように、**交通の結節点**としての「交ひ（い）」が転じ、「甲斐」になった**という説もあるらしい**。そして今、この説のとおり、中央自動車道・中部横断自動車道・東富士五湖道路・西関東連絡道路などの**道路網**や、JR中央本線・小海線・身延線・富士急行線、更にはリニア中央新幹線開通が控えるといった**鉄道網**によって、この山梨という地は、様々な「ヒト・モノ・コト・バシヨ」がリンクする場所に**バージョンアップ**しているのだ。**「交わる」**といった部分ではこんな面白いストーリーもある。山梨県は内陸県であるからか、**海への憧れ**が強い。裏付けるように、マグロやアサリの消費量が全国1、2を争うほど**魚介の消費量が高い**のだ。人口当たりの寿司店数も全国1位。江戸時代から寿司店も多かったらしい。海はないが山梨の名水を活かし、山梨は淡水魚の「ニジマス」と海水魚の「キングサーモン」を交配し**「富士の介」**を生み出した。憧れた海の幸を輸入するだけでなく、日本で唯一キングサーモンの血を引く交配魚を開発し、**山梨の地で海を手に入れた**のだ。このように考えてみると山梨は、様々なものを**ブレンド**し、新しいイノベーションを生み出せる場所じゃないか！と思えてくる。最近では、富士山や八ヶ岳など、その豊かな自然に魅了された**県外・国外の人々**が、どんどん集まり**定着**し、地域・企業で様々な**相乗効果**を生み出しているらしい。いろいろ書いたケド、今、正に、**独特な文化圏・地域特性**を持つ山梨に様々な「ヒト・モノ・コト・バシヨ」が**集まり**だしている。私たちは、そんな「新しい」「まだ誰も知らない」「気付いていない」山梨を「知りたい」「理解したい」。そして、みんなに「知ってほしい」。実は、山梨県は**「やまなし多様性を認め合う共生社会づくり憲章」**というものをつくった。そこに、こんなフレーズがある。「自分とは違う考え方や能力を**愉しみます**」「**違いから学びます**」。ここには、まだまだ知らない山梨があるかもしれない。これまで気付かなかった山梨を知り、理解し、飛び込んでみると、山梨はどんどん**面白い場所**になるかもしれない。様々な人々・文化・考え方などが**混じり合う**ことで、新しいイノベーションが生まれると信じている。そんな想いを持って、今回、**あなたの周りのスペシャルな「ヒト・モノ・コト・バシヨ」**をリサーチする。皆さんには、「こんな山梨があったんだ！」「こんな山梨って**いね！**」といった、実は山梨に溶け込んでいた**素敵な山梨**を紹介してほしい。あなたの特別で**素敵なストーリー**を紹介してほしい。

**特設サイト**

<https://www.pref.yamanashi.jp/danjo-kyosei/kyoseisyakai/researchevent2026.html>



## 参考 情報

多様性を認め合える社会の実現に向けて

# やまなし共生社会 推進プレイヤーズ

になりませんか？

- 山梨県は誰もが「多様性」を認め合うことができる「共生社会」を目指しています。
- 共生社会をともに目指す仲間「やまなし共生社会推進プレイヤーズ」を募集しています。
- 年齢・性別・国籍・業種・立場など関係なく「誰でも」参加できます。
- 「個人」としても、「団体」としても登録できます。
- 「やまなし多様性を認め合う共生社会づくり憲章」に基づいて行動することを宣言し、共生社会の実現に向けた取り組みを進めます。

「やまなし共生社会推進プレイヤーズ」  
への参加はこちらから ➡ ➡ ➡

<https://www.pref.yamanashi.jp/danjo-kyosei/kyoseisyakai/players.html>



## ＼共生社会とは？／

年齢、性別、障害や疾病の有無、国籍、家庭の事情、業種、立場等にかかわらず、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切にして、共に支え合い、誰もがその個性や能力を発揮して、自分らしく生き生きと活躍していく社会のことです。

山梨県では、県民一人ひとりが豊かさを実感することにつながる、多様性を認め合う「共生社会」の実現を目指しています。

## ＼やまなし多様性を認め合う共生社会づくり憲章／

共生社会の取り組みが県民運動として広がるよう、考え方や行動の拠り所となる「やまなし多様性を認め合う共生社会づくり憲章」を制定しました。

やまなし多様性を認め合う共生社会づくり憲章  
～豊かさがあふれる山梨を目指して～

私たちはここ山梨で、だれもが個人として尊重され、お互いに支え合い、安心して個性と能力を発揮し、自己実現できる共生社会の構築を目指します。

そして、その構築には山梨に集う全ての人、一人ひとりがお互いを尊重し、相手の考え方や能力を理解することが極めて大切なことから、次をよりどころとして、その第一歩を踏み出します。

興味・関心を示します

積極的に対話します

自分とは違う考え方や能力を<sup>上の</sup>愉しみます

違いから学びます

相手を思いやる心を育てます

ゆるやかに、そしてしなやかにつながります

やまなし共生社会

